



令和6年1月9日

1月号 No.454

発行責任者

校長 湊 仁

所在地 福生市熊川 623

**2024年の幕開けです。
新年明けましておめでとうございます。**

校長 湊 仁

皆様明けましておめでとうございます。いよいよ令和6年がスタート、二小創立150周年記念の年を迎えます。

しかしながら、正月早々、能登半島を中心とした大地震が発生し、甚大な被害を受けました。亡くなられた方も日毎に増え、ご冥福を祈るとともにご家族やその関係者の方々に心よりお悔やみ申し上げます。まだ余震等が続き、落ち着いた状況には時間が掛かると思いますが、1日も早い復興、日常を取り戻されることを願っております。また、羽田空港の飛行機の接触事故では、機長はじめ、客室乗務員の的確な避難誘導のもと、旅客機の乗客には、一人も死亡者が出なかったことは、素晴らしいことだと思えました。その要因の一つに避難時に手荷物を誰ひとり持ち出さず、身体一つで機外へ脱出したことが挙げられていますが、指示の徹底と、それを守り実行する協力体制があったからこそと思います。今年幕開けが大変な状況でスタートしたのは今年がどんな年になるのかと不安な思いにかられるものですが、「災い転じて福となす」、「禍福はあざなえる縄の如し」などの諺の通り、悪いことばかりが続くはずはありません。しっかり各々のやるべきことを見失わず、元気にスタートしていきたいものです。

【創立150周年の年】

さて、昨年末、創立150周年便り「みのりの道」1号を発行しましたが、ご覧いただけましたでしょうか。

便りのタイトル「みのりの道」とは、校歌の三番にある歌詞から引用させていただきました。

学校だより「月見草」も、校長が職員会議で、教職員宛に発行している通信「見はるかす」も、同じように校歌から引用しています。代々の校長がその伝統を受け継いでいます。また、全校たてわり班を大きく2つに分け、「つばめ」と「ほたる」のグループに分けているのも校歌に登場する生き物から引用しています。この二小の校歌は、作詞者と田準一氏 作曲を中田喜直氏に手掛けていただきました。与田氏は、昭和30年代当時の田園風景広がる熊川の地を情景描写し、遠くに富士を眺めつつ、つばめやほたるが飛び交う自然豊かな様子とその学舎で元気にたくましく学び、鍛える子ども達への思いを込めた歌詞となっています。この校歌が昭和33年に制定されましたが、その後、間もなく、この熊川の地域一帯は、宅地化や道路の整備が加速化し、当時を偲ぶ風景は大きく様変わりしました。明治・大正・昭和・平成・令和という150年もの長い歴史の変遷で、多くの子ども達が二小で学び、鍛え、健やかに成長をしていきました。

その創立記念行事に向けての準備、運営が本格化します。まずは、計画・代表委員会（児童会）を中心に子ども達の発案を中心に何ができるか、何をしたいかを話し合っていきたいと思えます。また、航空写真を撮るための業者の選定やスケジュールの調整などが、すでに始まっています。今年、そして6年度は、周年記念行事のための準備に始まり、運営が本格化します。ぜひ、子ども達が二小の大きな節目を機にお祝いの機運を高め、地域を愛し、誇れる一人一人になってほしいと思えます。